龍谷大学 2024 年度（2025 年入試）1 月 30 日実施

世界史入試問題　概要／傾向と対策

1. 出題形式：**全問マーク式**。大問 3 題に 2 種類のリード文があり、解答する問題数は計 40 問。
   リード文中の下線と空欄をもとに選択形式で解答を選ぶ形式。出題形式は多様。時間は 60 分。

2. 出題内容：
   ・欧米史と、中国及びその周辺国家(民族)の歴史が中心。例年より欧米史の比率が高まった。
   出題分野は政治史を中心にして、文化史と社会史を交えている。

   ・時代は**古代から現代まで**バランスを取った出題。文化史は古代・中世から出題。
   第二次世界大戦後の歴史からの出題は無かった。

   ・他の社会科科目である日本史や政治・経済と同様に、**難問**が所々含まれる。

3. 傾向と対策
   ・**地図**を使用した問題を含んでおり、これは例年に見られる傾向。また解答の選択文に地名や地理上の情報（例えば「上流」「下流」）が含まれることがある。教科書では解説文ではなく、地図上にのみ見られる都市名の「ルテティア（現パリ）」を選択文に入れた難問もあった。
   対策として、教科書上の地図に目を通し、重要な地名等がどこに位置するかを確認して欲しい。

   ・歴史上の事件などの**順序**を問う問題が 4 題見られた。各教科書の単元、時代、事件などの起承転結や前後の因果関係を意識し、ストーリーとしてとらえるように心がけて欲しい。

   ・年号を問う問題はないが、正誤を判断する選択文に「XX 世紀」を含むものが複数あった。解答に迷う受験生は多かったと考えられる。重要な歴史上の事件などが**何世紀**(の前半・後半)にあったのかを答えられるようにして欲しい。

   ・1/30 実施の問題では東南アジア・西アジアなどからの出題は無かったが、龍谷大学はかたよりのないバランスの取れた出題が傾向である。ヤマをはらず、こうした地域の学習も忘れないで欲しい。

   ・難問が含まれるのは事実だが、問題全体を見るとその比率は低い。あくまでも**基礎**の学習を怠らず「憶え漏れ」の無いように心掛けて欲しい。

   ・**正誤問題**が出題の中心なので、**共通テスト**や類似する出題形式の他の大学の過去問題を解くことも対策になるであろう。